

コミしんまつやま

第11号（平成26年3月14日発行）
発行：松山地区コミュニティ振興会
連絡協議会
住所：酒田市地見興屋字前割9-4
電話：0234-62-2942

南三陸町での視察研修

平成25年11月15日

小学校廃校後の跡地を有効活用している事例を研修し、また震災後の復興の実情等を視察して、今後の防災意識の一層の普及啓蒙に資するため実施した。

最初に平成11年に閉校になった校舎を「ホテルの宿」として有効活用している「さんさん館」を訪ね、館の事務を担当している阿部さんの説明を受ける。閉校と同時に解体の声と存続の声があったが地元有志で組合を設立して校舎の宿として開業する。開館当時は年間700人、2〜3年目は3,000人と当時のグリーンツーリズムのブームもあって飛躍的に伸びたが、震災後は極端にその数は減少し、現在は400人程度まで落ち込んでいるという。年間100以上の体験プログラムがあって、インストラクターは70人余りとその大半は高齢者が占めている。インストラクターこそが地域の宝であって、地域の特徴の発見と人材の発掘こそが運営継続の礎であると語ってくれた。

さんさん館の説明の後に、阿部さんの震災体験を聞く。当日は銀行で地震を体感する。地鳴りのような、沖鳴りのような音がし、想像を超える凄まじいもので、親族に

も行方不明者がいて未だに発見されていないということ涙ながらに語られた。

昼食後、被災された町内（沿岸部）を志津川中学校校庭から視察し、復興商店街（さんさん商店街）で買い物・モアイ像の見学そして、防災庁舎での献花を行い、犠牲者への追悼と1日も早い復興を願って帰路についた。

我が国は災害がいつ発生してもおかしくないということ、とを肝に銘じ、普段から防災意識を忘れてはいけないし、訓練も必要であると実感した研修であった。



25年度を振り返って

松山コミュニティ振興会連絡協議会
会長 齋藤 勝

合併後に参加して以来、今回で8回目となった第41回酒田市民体育祭。これまで以上の成績をと臨んだが、結果は26チーム中18位でした。また、9月8日に開催された、第8回巡回駅伝大会では、過去最高の成績

を上回ることは出来なかったものの、21チーム中第5位という成績を収めました。

11月15日には、視察研修で宮城県「南三陸町」を訪ねました。廃校になった小学校跡地を有効活用している「さんさん館」で研修しました。発足当時の苦労やその後の運営や管理の実情などをお話いただきました。また、事務員の阿部さんからは3・11の地震体験や津波被害、避難生活の体験をお話していただきましたが、最後には、当時の状況を思い出されたのか涙ながらに語っていただきました。

その後、震災のあった地域を、高台にある中学校から視察し、その後、防災庁舎への献花、復興商店街での買い物とモアイ像を見学しました。余りの悲惨さに目を覆う人もいて、改めて震災の恐怖を体感してきました。ところです。

25年度各コミュニティ振興会でも数多くの事業を展開しながら、コミ振連の事業にも参加いただき、大変ありがとうございました。これから地域のコミュニティ振興会への事業参加と協力、併せてコミ振連へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

